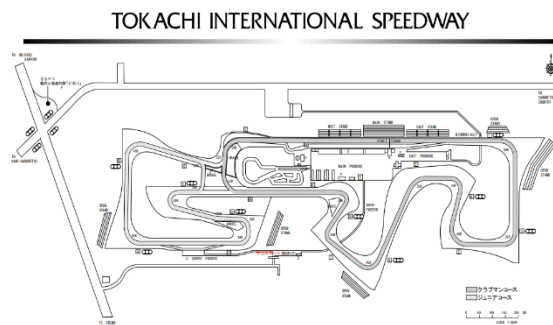


2023 GR86/BRZ Cup Rd.4 十勝 現地レポート

開催日：2023年8月19日-20日
場所：十勝スピードウェイ
チーム名：Team Takuty CHIBA SUBARU Racing
参戦車両：SUBARU BRZ 87号車
ドライバー：久保 凜太郎
メカニック：小畑 満俊(BP 新港) 田中 真斗(木更津店)
中山 弘平(大阪スバル)



8月17日(木)

遠く北海道十勝ラウンドという事で前日夜に、帯広入りしたスタッフですが、羽田からの便が条件付きフライト！遅延しながらもなんとか到着。行きの飛行機から波乱の予感満載でこの十勝ラウンドを迎える事となりました。

早朝にフェリー便で十勝入り予定だった機材を積んだトラックが台風の影響で到着が遅れテント設営等の準備が大幅に遅れてしまう**1つ目のアクシデント**が発生してしまいます。

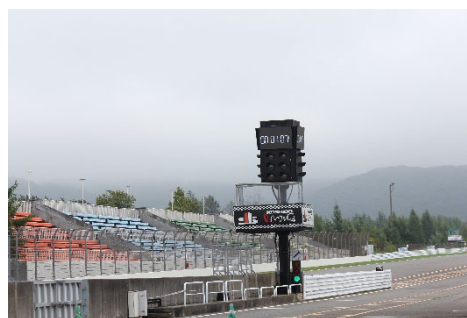
この日のスポーツ走行(練習走行)は3本が予定されており、1本目のスタート時間が迫る中、メカニック達は走行準備とテント設営を同時に実施する事に。

ここで早くも**2つ目のアクシデント**に見舞われます・・・早朝便で十勝に向かっていた88号車 井口選手を乗せた飛行機が、なんと天候不良のため羽田に引き返してしまいました・・・チーム代表でもある井口選手不在という混乱の中、1回目のスタート時間が迫ります。久保選手は、他のクラブマンドライバーのコーチングもあり前日入りしていた為、1回目は87号車のみ走行する事に。様々な指示が飛び交う中、メカニック達は87号車の走行準備を進めていきます。

こんな状況下で作業を進めるスタッフを、さらに苦しめたのは天候。朝は雨模様だった十勝ですが、気づけばあっという間に快晴！気温もどんどん上昇し、北海道なのに**30℃越え！！**非常に蒸し暑い中、1本目のスポーツ走行を何とか終わりました。走行中もテント設営とピット作業を分担して行っていたメカニック達。1本目が終了する頃にはテント設営も完了し、後は井口選手の到着を待つばかりとなりました。

しばらくして、井口選手の到着が13:00頃になると連絡が入ります。なんと2本目のスポーツ走行スタートは12:30～。ブレーキのセッティングを予定していた2台。急遽2台とも久保選手がブレーキセッティングを実施する事に・・・(一時は“他のドライバーにお願いするかも”なんて案も・・・)限られた25分間の走行枠で「2台のセッティングは難しいのでは??」と考え始めていた私の前でメカニック達が2台の走行準備を整えていきます。

ここで、Team Takuty だからこそ出来た素晴らしい対応が行われます。1回の走行枠で2台のセッティングはやはり難しいと判断。経験豊富なベテランチームスタッフが動きます。



12:00～スタートのクラブマンクラスのスポーツ走行に急遽、88号車をエントリーする事で、1台ずつ走行する事が可能となりました。(普通、こんな対策は思いつかない・・・)久保選手は2本連続でドライブする事となりましたが、無事に2台のブレーキセッティングを完了することができました！！

素晴らしいチームワーク！凄い！

そして、井口選手も無事に到着し、3本目は2台で走行。

2台共にまずまずの状態で行走を続け、様々なセッティングを試していきます。

そんな中、87号車 久保選手から残り4分を切ったところで、Rサスペンションの調整依頼が・・・こうなるとメカニックの腕が試されます。ピットに戻った車を素早くジャッキアップ。



時間との勝負が始まり、作業に小畑メカも加わります。私も手を出したい気持ちをグッと抑え、走行終了までのカウントダウンを始めます。残り2分を切ったところで、小畑メカからプロメカにバトンタッチ!! 私のカウントも「残り1分30秒です!!」と力が入ります。そして残り時間1分を切ろうとしたところで作業が終わり、87号車をコースに戻すことが出来ました。ギリギリセーフ(笑)久しぶりに制限時間のあるピット作業となり、ピットアウトする87号車を見送った時には必然的にみんなから拍手が起こっていました。小畑メカ、頑張りました👏私はこの雰囲気大好きで、メカニックとして手伝いたくなくなっていました(笑)

そして色々あった1日目。無事に走行を終える事が出来ました。

トラブルが発生しても、過去の経験からの確に対応する Team Takuty は、やはり素晴らしいチームであると共に、メカニック達の対応力の高さも感じました。

また、困った時には他チームが声をかけてくれる暖かさなど、モータースポーツならではの一面を感じた1日目でした。



8月18日(金)

この日も、2本のスポーツ走行と、午後の専有走行1本、計3本の走行が予定されていました。

昨日に引き続き、天候は朝から晴れ。雲はあるものの、直射日光だと痛みを感じるほどの日差しの中、9:20～1本目のスポーツ走行が行われました。朝の走行にも関わらず、路面温度は既に40℃近くまで上がっていましたが、サスペンションや内圧(タイヤ空気圧)のセッティングなど、順調に行っていきます。いつもより、か



なり細かなサスペンションの減衰力調整などが実施された感じです。そして、12:40～の2回目の走行時には気温も30℃を超え、路面温度に至っては、前回のもてぎと同じくらい50℃近くまで上がっていました。(ここは北海道ですが・・・)それでも、ドライバーは1周毎にしっかりと感覚を合わせ、メカニックもドライバーからの細かい指示に応えるべく、汗だくで作業を続けていきます。87号車 88号車共に33秒～34秒台で順調にラップを刻みます。



そしていよいよ本日最後の専有走行！！ここからは、ピットのモニターに各車のタイムが表示されます。走行開始から2台のタイムをモニターで見つめながら、プロメカニック達の会話に耳を傾けます。「おっ！リントロー良いんじゃないの～？」とチーフメカニックの声があった瞬間に87号車 久保選手の名前が**2番手に表示**。

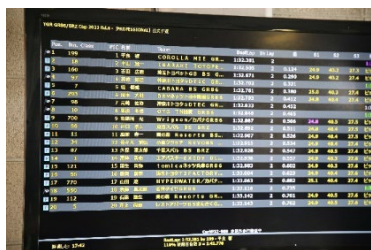
最終的に1:32.788、**3番手**で専有走行を終える事が出来ました。練習走行中の久保選手を見ていて“ちょっとセッティング悩み気味かな？”なんて勝手に思っていたのですが、しっかりタイムを出して帰ってきた久保選手に、思わず「さすがです！！」と声をかけてしまいました(笑)井口選手も1:32.981と0.2秒差。井口選手は10位で専有走行を終わりました。終わってみれば今回も0.9秒の中に20台がひしめく大接戦！！

翌日の予選も荒れそうな予感を残しながら、2日目の走行が終わりました。

一方、メカニック達の作業はまだ終わりません。走行終了した車両の事前車検を実施。ちょっとゴタゴタはありましたが2台とも無事に事前車検をパスして2日目終了となりました。

走行終了後、久保選手も「明日からの予選・決勝も**1.2フィニッシュ**を目指して頑張りたい！」とコメントしておりました。小畑メカ・田中メカも「久保選手にもてぎに続いて優勝してもらうためにも全力で頑張ります！！」とチームの士気は高い状態で明日の予選を待ちます。

8月19日(土) 予選



順位	車番	ドライバー名	タイム
1	106	CONSOLE 田中 誠	1:32.788
2	87	久保 誠	1:32.981
3	7	井口 隆之介	1:33.180
4	108	山本 誠	1:33.280
5	107	山本 誠	1:33.380
6	109	山本 誠	1:33.480
7	110	山本 誠	1:33.580
8	111	山本 誠	1:33.680
9	112	山本 誠	1:33.780
10	113	山本 誠	1:33.880
11	114	山本 誠	1:33.980
12	115	山本 誠	1:34.080
13	116	山本 誠	1:34.180
14	117	山本 誠	1:34.280
15	118	山本 誠	1:34.380
16	119	山本 誠	1:34.480
17	120	山本 誠	1:34.580
18	121	山本 誠	1:34.680
19	122	山本 誠	1:34.780
20	123	山本 誠	1:34.880



いつもよりややゆっくりホテルを出発したメカニック達。予選を前に緊張の中、ピットに到着しすぐに最終チェックに入ります。各部の増し締めや、ボディーの清掃など



手慣れた手つきで進め、タイヤのマーキングなども実施していきます。そんな各号車担当するメカニック達の表情は真剣というよりやや強張っているようにも感じました。そんな中、ドライバーが到着。いつものようにスタッフ全員に「おはようございます」と挨拶をして回り、いよいよ2人も予選モードに集中していきます。

12:35～の予選に向けて、着々と時間が過ぎていきます。

いつものように井口選手はファンの人達からのサインに快く応じながら集中していき、久保選手もストレッチをしながら集中を高めていきます。この時の久保選手はいつもより口数が少なかったように見え、やや力が入っているように感じました。昨夜の雨の影響で朝まで路面は濡れていましたが、予選を前にほぼドライになってきました。クラブマンの予選が終了し、BRZで参戦の吉田 隆之介選手がトップタイムをマークします。



いよいよ12:35～予選開始！！いつもなら開始早々にピットアウトする2台ですが、今回は予選が始まって



も二人は車の外！先頭でアタックをする車両達のタイムを確認します。87号車88号車が動き出さないのを見て他チームも一旦ステイ！まるでTeam Takutyの2台が動き出すのを待っているようにも感じました。そして残り時間が10数分を切ったころ、同じカラーリングの2台が一緒にピットアウトすると、待っていたかのように後続チームもアタックを開始します。いつものように1周目タイヤを温めて、2周目にアタック開始。会場全員が87号車88号車のタイムに注目する中

井口選手は昨日のタイムを上回る 1:32.892、久保選手は 1:32.928 で通過します。久保選手は 3 周目もアタックを試みますが、タイムを伸ばすことは難しく、井口選手が 10 番手、久保選手 13 番手で予選終了となりました。終わってみれば 32 秒台に 15 台がひしめく荒れた予選となり、やや悔しい結果にはなりましたが、チームとしては明日の決勝を諦めるような雰囲気は全くありません。

走行後、久保選手も「昨日と状況がガラッと変わっている事もあり、タイムは伸びなかったが、決勝は最低でも前に行く井口選手まで追いつき、2 人でポイントを取りに行きたい」と語ってくれました。

更に 2 人のドライバーからは「明日の決勝は追い上げの為、車も無事ではないかもしれないけど・・・良いですか？」と(笑)もちろん！「問題ありません」のグーサイン。若干の接触があっても上位を目指すドライバーの意思に対し、それをしっかりリカバーするのが我々ディーラーメカニックの役目。

「気にせず決勝頑張ってください！！」と 2 人のドライバーに伝え、厳しい予選が終了しました。

今回も前回から導入した横断幕を反対側のスタンド側に張りに行こうと考えていましたが、なんだかいつもと違って様子がおかしい・・・いつもスタンド席には練習走行の時にも人がいるはずなのに、今回は全く人を見かけない。予選当日も人の気配はなし。ただ、後ろの方に横断幕が一つだけ張られている事に気づき・・・念のためオフィシャルに「横断幕スタンドに張って良いか？」と聞きに行ったところ、一応 OK がもらえました。ただし・・・と注意を受けます。スタンド席に行くのに「気をつけて」と。ん？？恐る恐る地下の連絡通路へ向かうと、入口にバリケードが置かれていて一見通行禁止な感じ。それでもオフィシャルに OK をもらっているので、バリケードの隙間から地下通路を通ってスタンド席側に。地下通路は薄暗く落ち葉などがたまっており、「使われていない感」がただよみます。そして地下通路を抜けると驚きの光景が・・・ピット側と全く違い、スタンド側は廃墟！！草も刈られていないし、手すりや観客席は錆びてボロボロ！「気をつけて」の意味をここで理解しました。

聞いたところ、全盛期は北海道が管理していた十勝スピードウェイですが、撤退を決定。ある企業が買い取って現在運営している状態で、スタンド席まで維持が出来ず現在は使われていないとの事でした。初めて来た十勝スピードウェイがこんな状況だったことも、初めて知りました。横断幕を張るためにスタンド側に行かなければ気づかなかっただろうし、サーキット自体の運営も非常に厳しい状況なのだと痛感させられました。少しでもこのプロジェクトでモータースポーツ全般を盛り上げる事が出来たなら、活気のあった十勝スピードウェイも戻ってくるのではないかと深く考えさせられる体験でした。千葉県にも多くのサーキットが作られています。千葉に廃墟のサーキットを生まないためにも、モータースポーツの楽しさを全力で伝えていかなければ、と改めて思いました。



8月20日(日) 決勝

いよいよ決勝の朝。この日は朝から雨が降っており、9:00 の状況で路面は完全にウェット。全体スケジュールが 10 分遅れで遂行中、9:40 頃のクラブマン決勝が始まりました。水しぶきが上がるほどのウェットの中、クラブマンシリーズの決勝が終了。メカニック達も決勝に向けてピットボードの準備を始め、いよいよプロフェッショナルクラスの決勝がスタートしようとしています。朝ほどではないものの、降ったり止んだりを繰り返す空模様。路面もまだウェットのまま各車ピットアウト。グリッドウォークの時には雨は上がっていましたが、路面は濡れたまま・・・スタート前から決勝レースも荒れたレースになる事は現場にいた誰もが予想できたと思います。グリッドウォークを終えピットに戻り、いよいよフォーメーションラップ。



メカニック達はサインボードを準備しサインボードエリアへ。我々はピットのモニター前に集まり、動画を見ながら各車のタイムを見守ります。会場アナウンスがレッドシグナルを告げた数秒後、ブルーシグナルと同時に一斉にスタート。モニター越しに見えた 87 号車は若干スタートで遅れたように見えたが 1 コーナーまで順位をキープしているようにも見えました。

スタートから数 10 秒後の出来事。会場にアナウンスの大きな声が響き渡ります。はっきりと聞き取れませんが、なにかアクシデントが起きたことは明らかでした。

数秒後、セクションタイムを表示しているモニターに異変が・・・11 号車 脇坂選手・34 号車 佐々木選手・121 号車 蒲生選手のセクション 2 のタイムが表示されていない。

その瞬間、チーフメカが「リントロー絡んでないといけど・・・」と。確かに 11 号車と 34 号車は井口選手と久保選手の間でいた車両。途中接触などでリタイヤしたと思われ、第 1 戦 SUGO の時を思い出してしまいました。



みんなで「大丈夫か？」と心配していると、モニター下に“審議”の文字が・・・この時点で“フライング”と思っていましたが、見ている感じは逆に遅れてスタートしていたように見えました。後で解ったことですが、スタートラインをわずかに超えていたことが原因で 5 秒のペナルティとなってしまったのです。

その後、モニター下には 1 周目の接触について“確認中”

の文字が最後まで残る状況。一方レースは井口選手・久保選手共にベストラップを刻みながら猛烈な追い上げを見せます。気づけば久保選手は公言通り、井口選手の後ろまで追い上げていました。



結果は 88 号車 井口選手が 6 位。続いて 87 号車 久保選手が 7 位でゴールとなりました。ですが 5 秒のペナルティが加算され、最終的に 87 号車 久保選手は 9 位となりました。

途中の接触については、レースが終わってからも様々な情報が飛び交い、一時は久保選手も呼び出しを受けてしまいましたが、最終的には接触は別の原因によるものとなり、井口選手が 6 位・久保選手は 9 位で最終確定となりました。

今回の決勝レースも本当に厳しいレースとなりましたが、チーム力で何とか 2 台共にポイント獲得。88 号車 井口選手はランキングトップをキープ中！！

いよいよ今シーズンも折り返し。次戦、岡山ラウンドは 9 月 9 日(土) - 10 日(日)に開催されます。Team Takuty の活躍に目が離せません！！

シーズンチャンピオン目指して、ドライバー 2 人とチームの戦いは続きます。

しかしながら、このレースで勝つことは本当に難しいという事、今回も痛感させられました。

88 号車 井口選手が今まで連続で表彰台を獲得し、ドライバー 2 人が 4 戦中、それぞれ優勝しているから、なんとなく「勝てるのではないか」と思ってしまいますが、GT ドライバーがたくさん参戦しているレースです。

今までの成績は出来すぎているといっても過言ではありません。

前半の好調から色々なチームにマークされているので、後半は厳しい戦いが続くことが予想されます。ぜひ注目していただき、引き続き、皆さんの応援をよろしくお願いいたします！！

～余談～決勝を終え、後片付けをしてから帯広空港に向かい帰りの飛行機を待っていました。そしたらなんと！“視界不良で欠航”しますとのアナウンスが・・・。もう 1 泊、北海道の夜を過ごすこととなりました(笑)

こんなことがあるのか！？と驚きつつも、これもレースの醍醐味と聞き直して楽しみました！

次回の岡山もこんなことが起こるかも・・・と臨機応変に対応できるよう、気合を入れて行ってきます！！



以下 益田和久カメラマン 撮影

